団体・企業が善意の寄付

県電気工事業工組青年部協

車いす２台を贈呈

県電気工事業工業組合青年部協議会（大野秀幸会長）は24日、鹿児島市の県社会福祉センターで県社会福祉協議会へ車いす2台を寄贈した。

同協議会では、高齢者や障害者に安定した生活に一歩でも近づけるようにと、平成6年からチャリティー益金を活用し車いすを同協議会へ寄贈しており、今年は、薩摩川内市社会福祉協議会、頴娃町社会福祉協議会の2協議会に贈呈される。

贈呈式では冒頭、大野会長が「高齢者宅の電気設備無料点検など各種ボランティア活動を推進していますが、これからも地域社会に貢献できるように支部一丸となって取り組んでいきます」などと挨拶。引き続き、県社会福祉協議会の中村治人常務理事兼事務局長に目録、頴娃町社会福祉協議会の藤下勲事務局長に車いす1台をそれぞれ贈呈した。

これを受け、中村常務が「在宅高齢者への貸し出しや福祉教育、児童の福祉体験学習等で活用したい。今後も地域福祉活動の支援をお願いします」、藤下勲局長が「思いやりのあるクリスマスプレゼントで非常に感謝しています。町内に幅広く広報し、より多くの活用を心がけたいです」などとそれぞれの立場から感謝の言葉を述べた。

贈呈式を終え記念写真に納まる関係者ら
＝鹿児島市の県社会福祉センターで

子供たちと共に記念写真に納まる関係者
＝鹿児島市西伊敷の同所で

エス・エム・エスコーポレーション

福祉作業所に寄付金

㈱エス・エム・エスコーポレーション（松ノ尾正隆社長、鹿児島市）は22日、鹿児島市西伊敷の福祉作業所とんぼ（新徳孝夫所長）を訪れ、同社の協力会会員が積み立てた寄付金を贈呈した。

同日は、同社の松ノ尾社長と藤安啓人氏のほか、同協力会の代表として遠矢勝弘会長（㈲法正建設社長）、奥光洋副会長（㈲奥建具製作所社長）ら4人が同所を訪問。

贈呈式では、松ノ尾社長が「私たちは日頃、工事期間中などは近隣の方々に迷惑をかけることもあることから、地域の皆さんに何らかの形でご恩返しができればとの気持ちで、子供たちの施設を中心に同活動を続けてきました。わずかではありますが、少しでもお役に立てれば幸いです」などと挨拶。遠矢会長も「少しばかりですが、クリスマスやお正月などにお役立て下さい」と話し、奥副会長から協力会会員が積み立てた寄付金が新徳所長らに手渡された。

これを受け、新徳所長が「子供たちは障害を不幸とは思わずに一生懸命頑張っています。本当にありがとうございます」と感謝の言葉を述べた。また、新徳所長から松ノ尾社長へ感謝状が手渡されたほか、子供たちからはクリスマスリースがプレゼントされた。同活動は10年度から実施しており、今年で7年目となる。

協力し助け合える社会に――と教材を贈呈
＝鹿児島市のかごしま市民福祉プラザで

鹿児島電気工事業協組青年部会

妊娠疑似体験教材を寄贈

鹿児島電気工事業協同組合青年部会（春山建部長）は24日、鹿児島市のかごしま市民福祉プラザで毎年恒例の福祉贈呈を行った。命の大切さや親への感謝の気持ちを忘れず、協力し助け合える社会になってほしいと、妊娠疑似体験教材を鹿児島市社会福祉協議会に寄贈した。

7年度から毎年行われている福祉贈呈は、今年で10回目。春山部長は「命の大切さ、男女が協力することの大切さを知り、周囲の人々が助け合える社会づくりにつながれば」と、重さ約5㌔の妊娠疑似体験教材1セットを同協議会に寄贈した。

これを受けて、平瀬俊郎同協議会常務理事は「皆さんのボランティア精神には心から感謝します。教材は有意義に活用させていただき、その気持ちを利用者にも伝えていきたい」と感謝の意を述べた。同教材は、市内の学校や福祉講座等での活用が予定されている。

県交通被災者

交通遺児に献金

たすけあい協会へ

長島商事

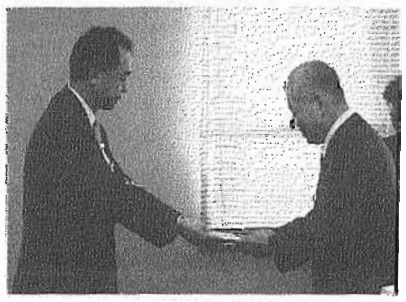
「交通遺児のために役立ててほしい」－と、県交通被災者たすけあい協会（米盛庄司理事長）に23日、長島商事㈱（長島和實社長）から交通遺児援護活動基金として100万円が贈られた。

鹿児島市与次郎1丁目の本社応接室で行われた贈呈式には、同社の田中弘哉調査役ら役員も同席。協会からは米盛理事長と出口翼事務局長が出席した。

同社では、交通遺児援護事業の一環として、「愛の献金活動」に長年にわたり取り組んでいる。21回目となった今回も、県内のグループ事業所に献金箱を設置。この日の献金も、寄せられた浄財と同社からの献金を合わせたもので、今年も100万円を超える善意が集まった。

贈呈後、同協会の米盛理事長から感謝状を受けた長島社長は「近年、国民の間に寄付やボランティア活動など、社会貢献への意識が芽生えているように感じられる。このような機運がさらに広がることに期待します。われわれの善意が子供たちへの励みになれば」と、今後も継続への決意を語った。

一方、米盛理事長は「協会では、18歳以下の児童・生徒を対象に支援活動を実施している。現在、県内には206世帯332人の交通遺児がおり、真心のこもった今回の浄財は入学・卒業の祝金や図書券として有効に使わせてもらいます」と感謝の言葉を述べた。



米盛理事長に献金を手渡す長島社長（左）＝鹿児島市の長島商事本社で

100万人のキャンドルナイト

スローな時間を共有

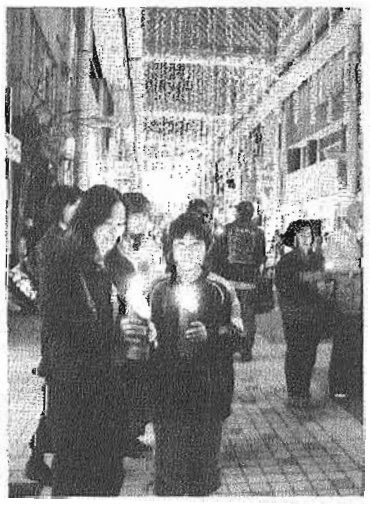
鹿児島青年会議所

鹿児島青年会議所は21日、昨年から全国各地で冬至と夏至に行われている『100万人のキャンドルナイト』を鹿児島市の天文館にある天神ぴらもーるで開催し、会員や立ち寄った買い物客らが竹筒のキャンドルに火を灯してスローな時間を共有した。

午後8時のライトダウンを前に、会員らが広報のチラシを配布し参加の呼びかけを行うと、多数の買い物客や親子連れが足を止めて参加。

冒頭、2005年度理事長の岩元修士氏が「限られた時間ですが、電気を消してろうそくの灯火だけで時を過ごすことで、自身や家族、自然環境などを見つめ直して頂きたい」と挨拶し、参加者全員の発声でカウントダウン。

ぴらもーる一帯のアーケードや商店街の照明が一斉に消されると、クリスマス用に飾り付けてあるイルミネーションと竹筒のキャンドルの灯火だけが照らされ、会員や家族連れは幻想的な雰囲気に陶酔していた。



竹筒キャンドルで時間を共有する家族連れら＝鹿児島市の天文館天神ぴらもーるで

あなたのご意見を募集します!!

本紙では、平成17年1月から読者の声・仮題「風は南から」を企画しております。本紙を利用していただき今かかえている問題・提案・提言や最近印象に残ったことなど原稿用紙1～2枚（200～400文字）程度をFAXまたはメールで送付下さい。

応募につきましては、テーマは不問とし、氏名、職業、年齢をご記入ください。なお、氏名につきましては匿名でも構いませんが職業、年齢のみはご記入下さい。

テーマの例
・多様化する入札について　・新技術の提案　・電子入札、納品について

応募・問い合わせ先　㈱鹿児島建設新聞
Fax099・225・1919　e-mail：osako@po.kc-news.co.jp